

1875年開校。馬橋清見寺の本堂を借りて、桃園学校第一分校（杉一小の始まり）ができました。初めての児童数は55人程度でしたが、たちまち100人を超えてしまったので、馬橋7番地に校舎を建てて移し、翌年に桃野学校として独立しました。1884年には、天神様の跡地である現在の場所に立派な校舎が建てられました。

1923年9月1日、関東大震災が起き、そのために杉並村に移り住む人が急増し、入学の申し込みが増えて学校は受け入れが大変だったそうです。阿佐谷に移ってきた人たちはサラリーマンが多く、畑や田んぼは家やアパートに変わっていきました。また、農家はだんだん少なくなっていきました。1902年には豊玉群桃野尋常高等小学校に名前が変わりました。その時の児童数は300人以下でしたが、阿佐ヶ谷駅完成と関東大震災により多くの人に移り住んできたので、児童数も増えました。そのため、神明宮の建物を借りて教室にしたり、登校する時間を午前・午後に分けたりしました。

昭和に入り、太平洋戦争が始まり、生活も大きく変わりました。男性は戦いに出たり、学生たちは軍工廠で働いたりしました。また、学習にも戦争の影響が強くなりました。1945年には東京に焼夷弾が落とされました。その一つが学校のすぐ南の銀行に落ち、学校の一部が火の海になりました。ですが、火事は大きくならずに止めることができました。1947年には学校の名前も杉並区立杉並第一小学校に変わりました。1957年には校舎の建て替え工事が始まり、1970年には今とほぼ同じ校舎が完成しました。

現在、150周年を迎え、10月には記念式典やおめでとうの会も行われ、学校全体でお祝いをしました。

さんこう 参考

わたしたちのすぎないち
杉一



150年もの歴史がある『杉並区立杉並第一小学校』。その歴史からも分かるように、卒業生は12000人を超えています。

